

みなさんこんにちは。県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。
令和も4年目が始まりました。今年もご愛読よろしく申し上げます。

昨年末に当センターの相談員の先生とお年玉の話になったことがありました。「お年玉はピン札であげる」という話を聞いたときに、ふと、そもそもお年玉ってどんな意味があり、何のためにあげるのか考えたこともなかったなと思いました。げんこつを頭に「落とし玉」と言われた記憶はありますが…(^_^;)

そこで、お年玉について調べてみると… なんと！！

鏡餅やお雑煮にも関係しているとは… (・□・;)

読んでいて、そうだったのかと感激したので、

以下 <https://allabout.co.jp/gm/gc/404101/> より抜粋しました。

～現在のお年玉はお金が主流ですが、もともとはお餅でした。でも、単なるお餅ではなく、「魂」生きる力、気力を意味するものでした。昔は、年の初めに年神様から新年の魂を分け

ていただく、つまり、毎年一年分の力を授かると考えられていたのです。一連のお正月行事というのは、新年の神様である「年神様」を家に迎えて・もてなし・見送るための行事です。年神様は、新しい年の幸福や恵みとともに、私たちに魂を分けくださると考えられてきました。毎年魂を分けいただくということは、その数を数えれば年齢になります。そこで、誕生時には魂があるから生まれたときは1歳と考え、その後は元旦がくるたびにみんな一斉に年をとる「数え年」だったわけです。

では、どうやって年神様から魂を分けさせていただくのでしょうか？ 鏡餅が年神様の依り代であるように、家にいらした年神様は鏡餅同様に餅玉に依りつきます。すると、餅玉には年神様の「御魂」(みたま)が宿ります。この年神様の御魂が宿った餅玉が、その年の魂となる「年魂」です。そして、年魂をあらわす餅玉を、家長が家族に「御年魂」「御年玉」として分け与えました。これがお年玉の由来！ 玉には魂という意味があります。

この餅玉を食べるための料理が「お雑煮」で、餅を食べることで体に魂を取り込みました。ですから、お雑煮には必ず餅が入っており、お雑煮を食べないと正月を迎えた気がしないという感覚も合っているのです。

お年玉がいつから始まったのかは諸説ありますが、江戸時代には庶民にも浸透していたといわれています。また、お餅だけではなく品物やお金を渡すこともあり、こうした年始の贈り物を「お年玉」と称するようになりました。～

※この他にもお年玉のマナーや常識が書いてありますので、興味のある方はご覧ください。

「お年玉をピン札であげる」ということは、理にかなっていると思うとともに、来年は、この「魂」の話をしながら、お雑煮を食べたり、お年玉を渡したりしたいと思う私でした。

☆子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★